■□募集要項□■

■参加条件

① 授業もしくは課外活動で国際理解・開発教育もしくは関連活動を実践されている方、興味・関心をお持ちの方（学校教育現場以外の方でも実践場所がありましたら参加可能です）。

② プログラム全ての参加をおすすめします。

③ 受講後、県内で開催される、国際理解・開発教育支援事業に協力可能な方が望ましいです。

④ 中・上級編は入門編参加者も参加可能ですが、国際理解・開発教育の基礎がある前提の講座となります。

■定員：各40名

■会場：JICA沖縄国際センター　住所：浦添市前田1143-1

■参加費：無料

・交通費、食費、宿泊費は自己負担（本研修はJICAと沖縄県教育委員会との連携覚書に基づく同会後援のものです。学校により職専免や公務出張扱いになる場合がございますので、所属長にご相談下さい。）

・空室がある場合に限り、JICA沖縄国際センターの宿泊施設もご利用いただけますので、応募時もしくは実施の1週間前までにご連絡ください。(経費は自己負担)

・昼食、マイカップのご持参をおすすめします。（JICA沖縄食堂エスニックもご利用いただけます。）

・無料駐車場あり

■応募方法

◇Email：JICA沖縄国際センターまたは、NPO法人沖縄NGOセンターのHPから応募用紙をダウンロードし、Emailに添付して沖縄NGOセンター(onc@oki-ngo.org)まで送信ください。

◇FAX：応募用紙に必要事項を記入し、沖縄NGOセンター（FAX:098-892-4758）まで送付。

■学生もしくは本講座に興味のある方へ

運営ボランティアとしての参加は可能ですので、是非ご参加下さい。教職を目指している方、国際問題や協力活動に関心のある皆様をお待ちしています。プログラムによっては講座・ワークショップ自体に参加可能なものもあります。まずは下記までご連絡下さい。

⇒NPO法人　沖縄NGOセンター　TEL：098-892-4758／Email：onc@oki-ngo.org

参加者のこえ

たくさんの先生方からの刺激!!　教材につなげていきたい!!まずは実践!!

“何を教えたいか”ではなく、“何を伝えたいか”の問いかけで、学習者が能動的に学ぶのではないかと気づいた。発問の仕方は大切だということを学んだ。

事実をひとつずつしっかり知ること。事実を受入れこれからの生き方を見直すこと。地球全体で生きているということを子ども達にきちんと理解させたい。

共有の時間も大切

WS「世界がもし100人の村だったら」体験中

参加型ワークショップ体験中

2016年度　国際理解・開発教育指導者養成講座

沖縄県

世界を伝えるプロになろう

日本の人口は50年後には現在の67%にまで減る一方、開発途上国の人口は現在でも世界の8割であり、経済も改善され世界経済の50%を占めるまでになります。そんな世界の流れの中、私たちにはどんな教育が求められるのでしょうか。
「Think globally, Act locally!（世界規模で考え、足元から行動する）」の言葉にあるように、今、世界と地域の課題のつながりを一人ひとりが考え、持続可能な社会を築くために行動することが求められています。

国際理解・開発教育はそのつながりを体験を通して深く考え、地域や自分も見直し、授業者も参加者も互いに参加・表現しながら学び合う教育活動で多様な校種・教科に対応できます。

また、ワークショップやファシリテーションなど学習を深める手法もあわせて学びます。

私たちの地域（沖縄）と世界をつなげる学びを一緒に体験しませんか。

開催日程（入門・中上級）：全3回シリーズ（詳細は裏面に記載）

【入門編】
●第1回目●
平成28年7月23・24日（土・日）
●第2回目●
平成28年8月19・20日 （金・土）
●教材持ち寄りセミナー●
平成28年11月週末予定
●第3回目●
平成29年2月11日（土）

【中・上級編】＊入門編参加者も参加可
●第1回目●
平成28年7月9日（土）
●第2回目●
平成28年11月26・27日（土・日）
●第3回目●
平成29年2月18日（日）

教師海外研修で訪問したラオスの9歳の女の子が描いた絵。テーマ「私の宝物」

申し込み：
NPO法人　沖縄NGOセンター
〒901-2211　宜野湾市宜野湾3丁目23-52
TEL：098-892-4758　FAX：098-892-9908
Email：onc@oki-ngo.org

全講座会場：
JICA沖縄国際センター（浦添市前田1143-1）
主催：JICA沖縄国際センター
後援：沖縄県教育委員会
事業運営：NPO法人沖縄NGOセンター

入門編

講座内容

☆英語、国際理解教育や社会科のみならず、多様な教科で利用可能なワークが盛りだくさん
☆教材／手法の体験から手法、教材づくりまで学べます
☆講義形式よりも参加型の学習活動を重視し、実践につながりやすい講座です
☆教材の「体験」「作成」「実践」「振り返り」のプロセスを経て、参加者自身が国際理解教育・開発教育のプロになることを目指します

プログラム

第1回目「 “どっぷり” 教材体験」
平成28年7月23・24日（土・日）9：30～17：30
初心者のために、有名なワークショップを体験し、国際理解・開発教育への理解を深める。
＊内容（予定）：参加型ワークショップ体験：貿易ゲーム、世界がもし100人の村だったら、他

第2回目「 “じっくり” 教材・実践計画作成」
平成28年8月19・20日（金・土）9：30～17：30
初回の講座同様、ワークショップ体験を行いながら、県外でも活躍された講師から講義、ワークショップ教材指導案作成を学び、その後グループに分かれてオリジナル教材の作成を行う。
＊内容（予定）：参加型ワークショップ体験、教材作成体験、他

「教材持ち寄りセミナー」
平成28年11月中旬の週末　9：30～17：30
実践した教材を持ち寄って共有する。

第3回目「 “すっきり” 実践報告・振り返り」
平成28年2月11日（土）9：30～17：30
最後の振り返りを深めるワークショップを体験。第2回目県外でも活動する講師が新テーマのワークショップを提供。
参加者の実践・教材の発表と意見交換、講座全体の振り返り。
＊内容（予定）：参加型ワークショップ体験、参加者（有志）実践発表、意見交換、他

中・上級編

講座内容

☆本編は、主に本講座入門編や教師海外研修で学び現場で実践している方同士が、実践を共有しつつ、実践の幅を広げたり、内容を深めるためのものです。＊入門編対象者でも参加も可能です。
但し、本講座は入門編で行っている基礎の共有は致しません。内容は中・上級編のみとなりますことをご理解願います。

プログラム

第1回目「参加型を広げよう、これまでの実践者の発表・共有」
平成28年7月9日（土）13：30～16:：30
過去に本講座受講者、教師海外研修で学び、学校現場実践している方の実践共有の場。
＊内容（予定）：参加者実践発表、意見交換、他

第2回目「深く、深く、ファシリテーションを学び合う」
平成28年11月26・27日（土・日）10：00～16：00
県外講師とワークショップ、ファシリテーションを学び合う。ファシリテーター、参加型の進め方を深めていく本格的なワークショップ。

第3回目「国際理解・開発教育をひろげよう」
平成29年2月18日（日）10：00～16：00
一般市民、教員の方を対象に参加型手法（ワークショップ）の実践、紹介を行う。
＊内容（予定）：参加者（有志）実践発表、意見交換、他

参加型教材・手法の紹介　（予定ですので、当日変更の可能性もあります。）

入門編

A

【ワークショップ版 「世界がもし100人の村だったら」】※必須
内容：世界の多様性をクイズや体を動かしながら楽しく学ぶ大人気ワークショップ。世界63億人の人口を100人の村に見たてて世界の現実をわかりやすく身近に感じさせる。2001年インターネットで世界中に反響を及ぼしたメール「100人村」を教材にしたもの。ファシリテーター：県内現職教員
手法やキーワード：ロールプレイ、世界の多様性、現状理解、貧困、紛争、富の分配

B

【貿易ゲーム】※必須
内容：ゲームのプロセスを通して貧困が生まれてくる世界の経済/貿易の裏の構造、先進国・途上国の不平等な現状に気付く大人気の有名教材。ファシリテーター：県内現職教員
手法やキーワード：疑似体験、世界経済/貿易、南北問題、格差、構造理解、交渉

C

【ワークショップ「ひめゆり」】※必須
内容：終戦から70年。次世代へどう平和学習をつなぐかということを、沖縄戦についての参加型ワークショップを通して考える。アニメ「ひめゆり」を鑑賞し、自分がどんなことを感じ、他の人がどんな風にかんじているかをのかを旧友するワーク。ファシリテーター：ひめゆり祈念資料館学芸員
手法やキーワード：平和、平和祈念資料館、ひめゆり

D

【セネガルのファールさんのくらし】※必須
内容：セネガルのダカールでお金を貰いながら暮らしているファールさんの生き方を通して、「平等」について考える。ファシリテーター：県内現職教員
手法やキーワード：平等、宗教、異文化理解

E

※EかFの選択
【サオリの学び】
内容：ペルーからやってきた日系3世のサオリの視点から、生まれ育った環境や背景、文化の違いはあるけれども、お互いに向き合い違いを知り、その違いを活かしあう事のできる社会を考える。ファシリテーター：県内NGOスタッフ
手法やキーワード：沖縄移民、多文化共生、共感

F

※EかFの選択
【沖縄移民学習　最初の一歩】
内容：沖縄移民の広がりや歴史、それぞれの国の文化などを、カルタや民族衣装、楽器、歌などを使って考えたり、感じたりする。ファシリテーター：県内NGOスタッフ
手法やキーワード：沖縄移民、異文化理解、カルタ、民族衣装、楽器、

講師紹介

入門編
第2回目

土橋泰子（つちはし　たいこ）　氏

青森県での教員経験を経て、教員現職参加で青年海外協力隊としてネパールで活動。その後、開発教育協会(DEAR)理事、JOCA（青年海外協力協会）の開発教育チームリーダーを務め、多数の教材を作成。著作に「レヌカの学び」や『セネガルのファールさん」などがある。
◇那覇市真嘉比小　教諭

中・上級編
第2回目

池住義憲（いけずみ　よしのり）　氏

30年にわたるNGO（非政府組織）経験をいかして、ファシリテータートレーニングをはじめ、「参加型地域開発」「国際協力」「グローバリセーシ ョンと第三世界の民衆の健康」「保健・開発問題」「南北問題」「開発教育」「人権教育」「参加型学習」「街づくり」など、要請に応じて国内外で参加型研修（ワークショプ）や講演を展開。国際民衆保健協議会代表を1997年から2003年まで努める。
◇元立教大学立教大学大学院特任教授